あとがき

今回の展覧会は山田正亮の新作(1983年)油彩・ドローイングの発表である．山田さんは昨年9月，最近とみに騒々しくなった代々木上原から緑の多い閑静な国立に転居された．その新しく広いアトリエで生まれたのが今回の作品でご覧のように182×456cmの大作を含むのびのびとした意欲的な作品の展示となった．

今回は作品が大きく出品数も多いこと，一方受け入れる画廊のスペースの関係もあり，当画廊とイノウエギャラリー(画廊主井上文夫氏)の2会場での併展とし36点を展示することになった．両会場ともぜひご覧いただきたい．

カタログのテキストは早見堯，本江邦夫の両氏からご寄稿いただいた．早見さんは山田正亮自身の歴史に即して新作を論じられ，本江さんは現代絵画の歴史の流れのなかで山田正亮を位置づけ論じておられる．両論相俟ってこの山田正亮新作展は一そう光彩を放つものとなった．感謝申し上げる．

山田さんの作品はだんだんと豊かで楽しいものになって来ている，とぼくは思うのである．山田さんは〝平面に徹して仕事をしている作家であり，抑制のきいた知的な作家である．ところがこの抑制のなかに，最近一種の芳香を感ずるようになった．最近の山田さんの画面には「動き」というか「ドローイング性」というか，描きの要素が大きいのが注目されるところであるが，この芳香は正しくこの「動き」のなかから立ち昇って来ている，とぼくは思っている．

最後に今回はポスターを作成したことを申し添えるとともに，今回もお世話になった浅井潔(カタログ・ポスター作成)，内田芳孝(写真)の両氏に改めて感謝の意を表する．

1983年10月21日　佐谷画廊
佐谷和彦